議会だより

第124号

群馬県昭和村議会

令和8年10月15日　9月定例会



Contents

2～3　令和７年度決算報告
4～5　９月定例会
6～7　各常任委員会
8～9　全協・トピックス
10～15　村の姿勢を問う

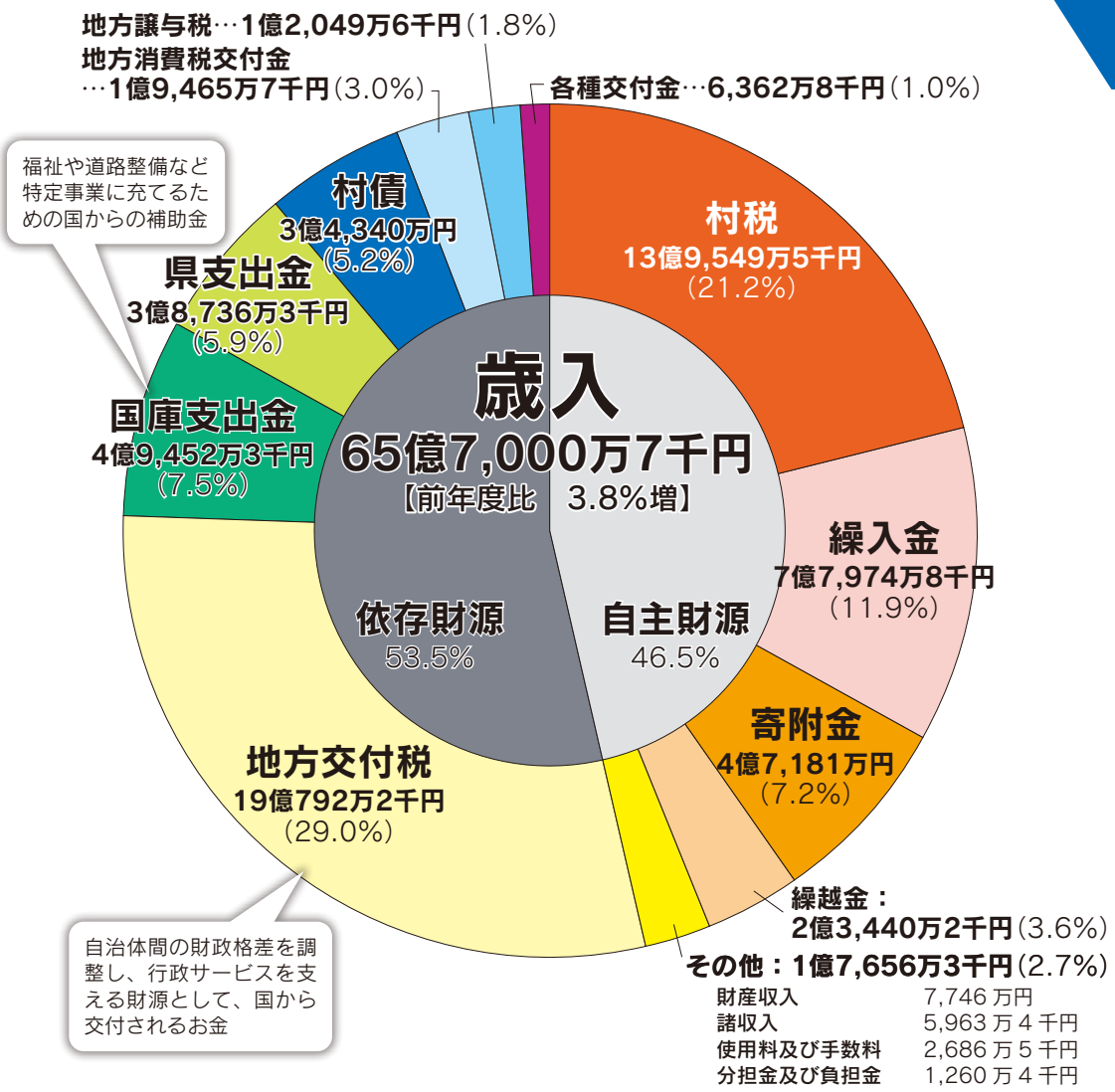
第37回　昭和中秋季大運動会「獅子奮迅」

令和７年度

決算報告

決算審査特別委員会では４日間にわたり、令和７年度一般会計と３つの特別会計、２つの事業会計を含む総額83億３，０９９万６千円の支出を認定し、前年比０・９％の増となっています。

一般会計の歳入総額は65億７，０００万７千円となり、自主財源比率は46・５％と比較的安定した結果となっています。体育施設照明のＬＥＤ化や、中学生のスクールバス運行業務、入学祝い金など新たな事業が実施されました。



実施された主な事業

スクールバス運行業務委託　3,921万円

通学困難地域の児童を対象としたスクールバス運行業務に、新たに中学生の登下校も追加されました。

体育施設照明ＬＥＤ化事業　３億195万円

脱炭素化を推進するため、総合運動公園内のテニスコート、野球場、多目的グラウンドのほか、昭和中グラウンド、多目的屋内運動場の照明がＬＥＤ化され、明るさや利便性が向上されました。



ＬＥＤ化され明るくなった施設

入学祝金支給事業　409万円

児童生徒の健やかな成長に寄与することを目的とし、小学校および中学校に入学する児童生徒の保護者に対し入学祝金を支給。金額は一人当たり、小学校３万、中学校５万円で延べ103名に支給されました。

君河原橋橋梁耐震補強工事　1,836万円

令和５年度から始まった耐震補強工事は、令和８年度への繰越工事（7,455万円）で一区切りとなり、今後は県の計画と予算で改修される見込みです。

チェック！

現在の久呂保橋から昭和I.Cを結ぶ県道昭和インター線が、戸鹿野橋を起点として新たな昭和インター線として県道昇格されます。

一方で、久呂保橋から森下信号までの間を川額森下線として、県道から村道へ変更される予定のため、今後は久呂保橋等の維持管理は村が負担していくことになります。ただし、久呂保橋の改修やローソン前交差点の改修を県が実施した後に村道へ移管される予定となっています。

財政のここに注目

1 財政力指数 0.440
前年度比　0.00【維持】

行政サービスを自前の収入でどの程度賄えているかを表します。１に近い又は超えるほど財政基盤が強く、余裕があるとされます。

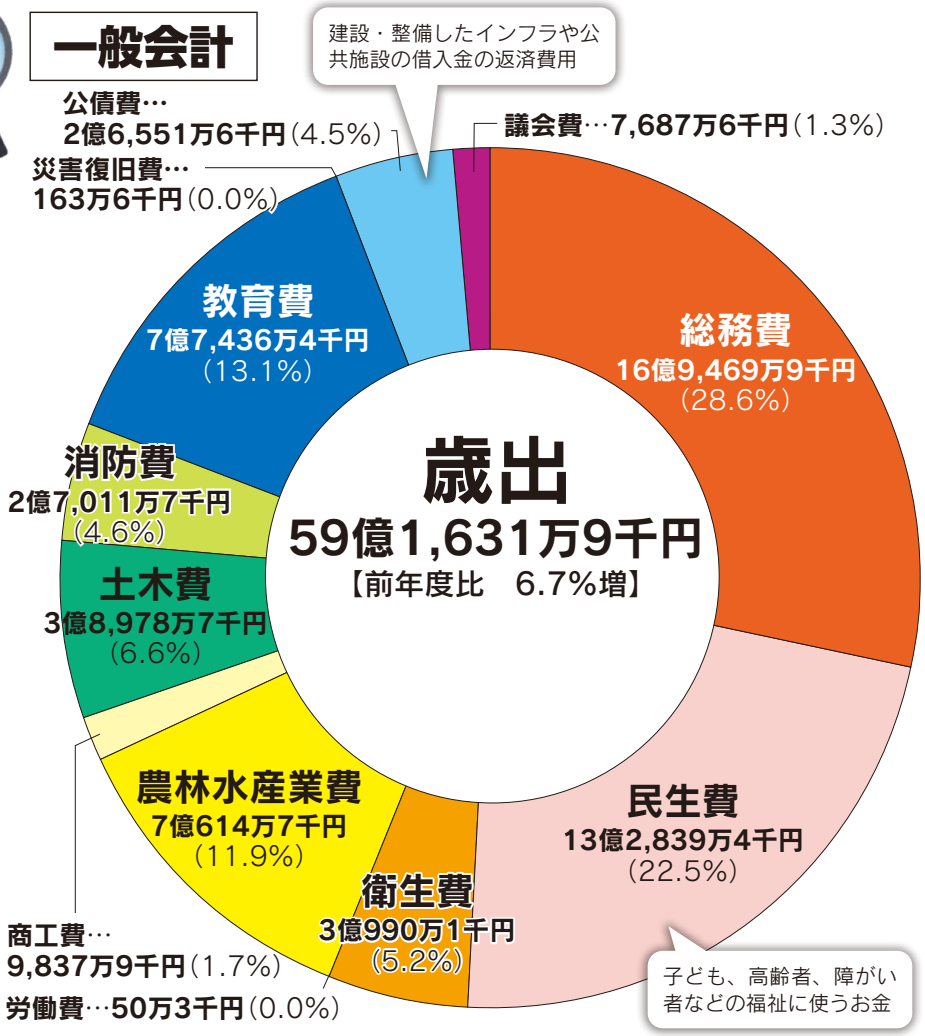
2 経常収支比率 81.4%
前年度比　−3.1【向上】

経常的な収入に対し、人件費など毎年必要な支出を占める割合を示す指数で、数値が高いほど財政が硬直化し、低いほど自由度が高く70%～80%の範囲が望ましいとされています。

3 実質公債費比率 4.8%
前年度比　0.0【維持】

財政規模に対する実質的な借入金返済負担の割合を示す指標で、公営企業会計や一部事務組合負担分なども含めて算定されます。

一般会計



■昨年の事業会計の抽出項目

会計名		歳入	歳出	差引残高
一般会計		65億7,000万7千円	59億1,631万9千円	6億5,368万8千円
特別会計	国民健康保険	12億2,051万4千円	11億4,423万7千円	7,627万7千円
	介護保険	8億2,116万円	7億6,907万4千円	5,208万6千円
	後期高齢者医療	1億3,029万円	1億2,185万1千円	843万9千円
事業会計	簡易水道	1億6,027万3千円	1億5,151万9千円	875万4千円
	下水道	2億3,078万円	2億2,799万6千円	278万4千円
合計		91億3,302万4千円	83億3,099万6千円	8億202万8千円

一般会計

うち基金繰入金	3億7,932万8千円
財政調整基金	3億5,186万2千円
学校校舎建設基金	2,746万6千円
繰越明許費繰越額	1億436万円
翌年度への繰越額	1億7,000万円

監査委員による決算審査報告

代表監査委員　萩原　正樹氏
監査委員　片柳　悦夫氏

令和7年度の決算審査結果について、監査委員より議会へ報告がありました。
主な内容は以下のとおりです。

1. 決算・予算執行の状況

令和7年度昭和村一般会計及び特別会計並びに事業会計の決算は法令に基づき適正で、予算執行も問題ありません。各事業において柔軟な行政運営がなされ、全体として健全と認められます。

2. 村の財政状況

昭和村の財政の特徴は「財政力は弱いものの、借金を抑えた堅実な運営」。財政力指数は0・44と自前調達できる財源は4割、残り6割は外部依存である一方で、実質公債費比率は4・8%と低く、赤字もなく、借金も抑制されており、限られた財源を上手にやり繰りし、財政の健全性は維持されています。

3. 今後の課題

全ての大型事業をフルスペックで実行できる体力はありません。事業の優先順位を明確にし、縮小・廃止も視野に入れた判断が必要です。

今後、少子高齢化やふるさと納税の減少、投資事業により、財政の悪化が見込まれます。新たな財源確保、行政のスリム化や滞納整理を進め、限られた資源を最大限活用する創意工夫が求められます。



９月定例会

今定例会は、９月４日から16日までの13日間の会期で開催。議案10件、認定６件、報告２件、発議１件の計19件が提出され審議しました。いずれも原案のとおり可決。また、６人の議員が一般質問をし、村の姿勢を問いました。

人事

昭和村固定資産評価審査委員会委員の選任同意

横坂先夫氏（田岸）の再任を同意。



（田岸）

補正予算

令和８年度昭和村一般会計補正予算（第２号）

２億５５２万２千円増額。

総額

50億３，０７７万９千円

歳入は野菜花き生産力強化補助金、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金など。

歳出は鎌沢住民センターの補修、昭和の湯のシャワー改修工事、水道基本料金を減免、生越地区の排水施設の復旧、赤城西麓敷島１―２工区埋蔵文化財調査など。

令和８年度介護保険特別会計補正予算（第１号）

34万５千円を増額。

総額

８億１，２３７万５千円

介護給付費準備基金繰入金、前年度支払基金交付金の返還金など。

令和８年度昭和村簡易水道事業会計補正予算（第２号）

収益的収支（料金・維持管理費など）

収入・支出

１３０万円増額。

総額

１億７千６５６万７千円

物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金、他会計補助金、人件費及び水道施設除草作業委託料など。

令和８年度昭和村下水道事業会計補正予算（第２号）

収益的収支（料金・維持管理費など）

収入・支出

50万円増額。

総額

２億６，１４０万９千円

物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金、他会計補助金、消耗品購入費など。

条例改正

昭和村いじめ問題専門委員会設置条例の制定について

いじめ防止対策推進法第14条第３項の規定に基づき、昭和村いじめ問題専門委員会を設置、その所掌事務、組織、会議、秘密保持等に関する条例を制定。

昭和村特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について

昭和村いじめ問題専門委員会設置条例に基づき、「いじめ問題専門委員会委員」を委嘱することから、当該委員の報酬を新たに加える。

昭和村福祉医療費支給に関する条例の一部を改正する条例について

これまで県内医療機関のみだった窓口負担なしの現物給付が拡充され、群馬県が協定を結んだ県外医療機関でも償還払いの手間なく現物給付を受けられるようになるほか、受給資格確認もマイナンバーカードやマイナポータル情報提示でも可能となる。

決算認定

令和７年度昭和村各会計の歳入・歳出決算を認定。詳しくは２ページから３ページで説明。

報告

令和７年度昭和村健全化判断比率等の報告について

実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費率、将来負担比率について、財務は健全と認められている。

株式会社あぐりーむ昭和の経営状況報告

令和７年度の事業報告書、貸借対象書、損益計算書、経営計画書。

令和８年度の予定貸借対照表、予定損益計算書の経営状況報告を受ける。

その他

村道路線の変更について

主要地方道昭和インター

線バイパス事業に伴い、村道の起点を変更する。沼田土木事務所との協議の結果、昭和インター線の区域変更が生じ、村道認定路線の見直しが必要となり、起点を沼田市岩本町の信号機付近に変更。

群馬県市町村公平委員会共同設置規約の変更に関する協議について

令和９年４月１日から共同設置する団体に伊勢崎市、下仁田町、甘楽西部環境衛生施設組合、下仁田南牧医療事務組合が加入する。

発議

昭和村議会議員の定数を定める条例の一部を改正する条例について

昭和村議会議員の定数を現在の「12人」から２人削減して、「10人」に改めるもの。

なお、この条例の施行期日は、令和９年１月１日からとし、４年後の一般選挙から適用する。

提出された議案等と賛否一覧

※○は賛成　●は反対　※議長は、採決に加わらない。

		堤宏康	佐藤好美	林栄一	倉沢つかさ	林勝美	阿部孝司	片柳悦夫	藤井貞充	林幸司	加藤生	沢浦典子	永井一行
第３回定例会（令和８年９月４日～16日）													
議案30号	昭和村いじめ問題専門委員会設置条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
議案31号	昭和村福祉医療費支給に関する条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
議案32号	昭和村特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
議案33号	村道路線の変更について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
議案34号	群馬県市町村公平委員会共同設置規約の変更に関する協議について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
議案35号	昭和村固定資産評価審査委員会委員の選任同意について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
議案36号	令和８年度昭和村一般会計補正予算（第２号）について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
議案37号	令和８年度昭和村介護保険特別会計補正予算（第１号）について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
議案38号	令和８年度昭和村簡易水道事業会計補正予算（第２号）について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
議案39号	令和８年度昭和村下水道事業会計補正予算（第２号）について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
認定１号	令和７年度昭和村一般会計歳入・歳出決算認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	－
認定２号	令和７年度昭和村国民健康保険特別会計歳入・歳出決算認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
認定３号	令和７年度昭和村介護保険特別会計歳入・歳出決算認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
認定４号	令和７年度昭和村後期高齢者医療特別会計歳入・歳出決算認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
認定５号	令和７年度昭和村簡易水道事業剰余金の処分及び決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
認定６号	令和７年度昭和村下水道事業剰余金の処分及び決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
報告３号	令和７年度昭和村健全化判断比率等の報告について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
報告４号	株式会社あぐりーむ昭和の経営状況報告について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
発議２号	昭和村議会議員の定数を定める条例の一部を改正する条例について	●	○	○	○	●	○	○	○	●	●	○	－

みなさんからの請願・陳情

自　令和８年５月21日　至　令和８年８月19日

受理番号	受理年月日	件名	請願・陳情者	紹介議員氏名	付託委員会	審議結果
55	R8.7.28	永井地区の村道「入ノ久保上永井線」側溝へ溝蓋設置を求める請願書	永井区長　諸田義行	藤井貞充	文教産建	採択
56	R8.8.19	川額新田地区の道路改良に関する請願書	川額新田組合　組合長　竹之内信一	沢浦典子	文教産建	採択

総務民生常任委員会

村政一般、庶務、民生、保健、他の委員会に属さない事項を所管

所管事務調査　村内福祉関連施設を視察

9月10日に総務民生常任委員会を開催し、所管事務について調査・協議しました。

所管事務調査

問 「菜の花館」は、利用者の約半数が村民だが、地域密着型の事業所なのか。

答 健康福祉課

通常規模のデイサービスとして県の指定を受けている。昭和村にある特養は定員が大きいので、地域密着型の指定を受ける基準ではない。

問 デマンドバスについて、手を挙げたら乗れるような融通は利かないのか。

答 企画課

タクシーとは違うためできない。1時間前までに予約が成立すれば利用できる。

問 財政について、当初見込みの事業費を上回った場合は。

答 総務課

追加の補助金が付かなければ、他の事業の廃止。予算の中での調整。基金の取り崩しを含め、何らかの財源を見つけなければならない。

問 昭和村のイメージソングの評判は。

答 企画課

ユーチューブで視聴件数が2，000件を超えている。

問 地域おこし協力隊が一人もいないが。

答 企画課

メニューを広げて募集をかけようと思う。隊員の期間が2年間延長され、最長5年間可能。

視察研修

社会福祉法人昭和ゆたか会「星夜の森学舎」、住宅型有料老人ホーム「ゆずりは」を視察

星夜の森学舎では、「どんなに障害が重くてもできることがある。社会の役に立つことができる。」という開所からの想いを大切にし「仕事」を活動の軸に置いていた。利用者さんは、授産に力点を置いた作業に集中して取り組んでいた。やりがいや達成感を実感できるよう「工賃（給料）」を支払える仕組みをつくっている点が特徴的であった。



作業の様子（星夜の森学舎）

ゆずりはでは、「住宅型有料老人ホームであり、訪問介護事業所と居宅介護支援事業所を併設しています。また、全室ベッドの上での睡眠・呼吸・脈拍・離床など常時センサーで測定しているため、寝たきりの方やターミナルケア、認知症の方にも安心していただけます。」との説明があった。

要介護度1や2の方の入所が多かった。また、村内の利用者が半数以上であり、本村とのかかわりも密である。オープンな環境の家庭的雰囲気に溢れたほっこりした施設が村内に確保されている点は本村の安心材料でもある。

6月、9月と2回にわたり村内の福祉関連施設を視察。各事業所がそれぞれの特色を打ち出し、多様化する利用者さんのニーズに応じているように見受けられた。

特に、菜の花館（主に要介護度3から5）、ゆずりは（同1から3）と、要介護度に応じた施設が村内に確保されている点は本村の安心材料でもある。

文教産建常任委員会

教育、産業、経済、土木、建設、簡易水道、農業集落排水などに関する事項を所管

請願2件を審査、採択2件、沼田土木事務所意見交換会

９月11日に文教産建常任委員会を開催し、請願２件について、現地調査を行い、状況等を確認し審査しました。

審　査

川額新田地区の道路改良に関する請願書を採択

川額新田地区の農作業で使用する2か所の橋について、有効幅員が狭く、トラクターやコンバインなどを積んだキャリアカーが通行する際、切り返しに支障が生じているため、橋南側の回転スペースの道路改良を求めるもの。慎重に審議した結果、全会一致で採択となった。



永井地区の村道「入ノ久保上永井線」側溝へ溝蓋設置を求める請願書を採択

側溝に蓋の設置がなく、落ち葉等の流入による清掃作業の負担や、大雨時の道路崩落リスクがあるため、蓋の設置を求めるもの。農業用車両や生活道路として利用される重要な路線である点を踏まえ、慎重に審議した結果、全会一致により採択とすべきものとした。

なお、本請願は溝蓋設置を求めるものであるが、現場施工の側溝で既設の蓋では対応が難しく、距離もあり費用も高額となることが見込まれることから、事業実施にあたっての工法については、建設課と協議して実施するよう意見を付した。



所管事務調査

問　猟友会員が減少傾向であるが、村としての対策は。

答　産業課　以前、広報の特集で掲載。今後募集や、スマホに自動で罠の情報が来る等、若い方や負担軽減を考えた体制を考えていきたい。

問　当面する諸事業に学校給食センターが入っていないのはなぜか。

答　総務課　協議会の提言で現状の施設を使うとしているため。

問　耕作放棄地の現状と最適化推進委員設置について。

答　産業課　遊休農地は横ばい状態であり、しばらくは最適化推進委員を設置しなくてもよい状況と考えている。

行政視察

沼田土木事務所

昭和村内の県道や橋梁、河川や砂防などの公共インフラについて、現状の課題等を情報共有し、今後の整備計画や見通しについて、円滑な連携体制を構築することを目的に意見交換をした。

本村の道路網の将来に対する村民の切実な思い等、本村の発展に繋がることを願い意見交換したことは、実り多きものとなった。



全員協議会

7月・8月・9月に開催した全員協議会での協議内容は以下のとおりです。

7月27日

昭和村地域開発事業計画協議の報告について

古川牧場㈱「堆肥舎新築工事」、利根沼田農業協同組合「広域集出荷所新築工事」、東京発電㈱「とうはつ久呂保太陽光発電所」について説明を受け協議する。



造成中のJA新集出荷所建設地

昭和の湯について

配管の漏水により洗い場が使用できない状況。修繕費用等の説明を受け協議する。


故障中の洗い場

第二保育園の統合に関する説明会について

令和9年度統合に至った背景と理由、保護者説明会のアンケート結果について説明を受け協議する。

新ごみ処理施設建設工事費の各市町村負担金の試算について

建設工事費を130億円で試算した場合、村の負担額は約11億3千万円で4割弱の交付税措置がある旨、説明を受け協議する。


現在のごみ処理施設（沼田市外二箇村清掃施設）

第16回・第17回昭和村統合小中学校推進協議会の報告及び区長会議、地域説明会の報告等について

各説明会で出てきた質問等を踏まえ改めて推進協議会で議論した結果、基本構想(案)の建設候補地は鎌沢としたい旨の報告を受ける。

8月26日

第18回昭和村統合小中学校推進協議会の報告

地域説明会等も含め全36回の会議を行いまとめられた「義務教育学校施設整備基本構想(案)」の内容について説明を受ける。また、教育委員会で審議し承認を得たため、教育長より村長へ提言した旨、報告を受ける。

株式会社あぐりーむ昭和の経営状況報告について

しょうわマルシェの開催や市場の野菜価格高騰等の影響もあり、売上高は前年を上回る結果となったと第10期事業年度の事業報告を受け協議する。


賑わうしょうわマルシェ

9月14日

生越地区災害箇所の現地調査について

8月8日の豪雨による災害現場を確認し、復旧計画について説明を受ける。復旧費1億1，530万円を補正し、10月の査定によって約5割の補助金を見込んでいる。


道路に流出した土砂

大規模事業の事業費の見込みについて

今後十数年間の公共施設等の新設、改修による事業費の見込み額は合計約133億円。物価高騰や補助金・交付金等の変動により、負担額も変わる可能性があるが、一般財源の負担額は約77億円の見込みになると説明を受ける。

視　察・調　査・トピックス

花いっぱい運動と下草刈り

７月13日、村づくり協力委員と合同で望郷ライン沿いにマリーゴールドと百日草、赤谷信号の角にアジサイを植えました。植栽終了後は、農業委員会と村有林の下草刈りを行いました。

これからも、村づくり協力委員および農業委員会と意見交換をしながら、美しい村づくりをしていきたいと思います。



群馬県消防ポンプ操法競技大会

８月22日、消防学校で行われた県大会で、ポンプ車の部に出場した第４分団（入原）が４位入賞しました。団員の皆さんの情熱と頑張りに感動しました。



町村議会広報研修会

９月24日、群馬県市町村会館で開催され、広報編集特別委員会が参加しました。

研修会では、広報には戦略があり、誰に対して発信するのか、またこれからは動画的手法を取り入れる必要もあると講義を受けました。よりよい広報を作っていきます。

研修内容

「議会活動への理解を深める広報へ」

講師

一般社団法人経営協会　大谷邦郎　氏



アメリカ独立250周年記念式典招待 イーグルポイント市表敬訪問

７月3日から9日までの日程で、議長をはじめ議員3名と村長・職員、計8名で表敬訪問に参りました。２５０周年を祝う記念パレードへの参加、市役所や警察署などを視察してきました。また、カシー市長をはじめ議員の方々、昭和村に縁のある方々と交流を深めることができました。

雄大で美しい自然と温かい人々に囲まれたイーグルポイント市は、本村の中学生がホームステイをするのにふさわしい素晴らしい場所であるとあらためて認識するとともに、両市村の結びつきを一層強固にする有意義な表敬訪問となりました。





問う



林 勝美 議員

農産物のブランド化をどのように進めるのか

村長 「野菜王国」の認知度をさらに高める

問 昭和村の農産物のブランド化の必要性の認識は。

答 村長 生産者の所得向上と経営の安定化、また、本村の知名度向上と交流人口拡大を図る上で、村を挙げたブランド化は極めて重要な取り組みであると認識している。

問 品質基準や認証制度の導入は。

答 村長 JA等の関係機関や生産者組織の皆様と緊密に意見交換を行い、他の自治体の事例を参考にし、実効性のある基準・認証制度に向け調査・検討を進める。

問 ブランド名・ロゴの作成や販路拡大は。

答 村長 「道の駅あぐりーむ昭和」を拠点に品質の高さと種類の豊富さを発信し、横浜市や取手市、玉村町での販売PRや「ふるさと納税」の返礼品として活用を継続する。関係機関と連携し、ブランド力向上と販路拡大に取り組んでいく。



豊富な農産物

小中学生のスマートフォン等の利用状況は

教育長 利用時間がだんだん長くなっている

問 スマートフォンの利用状況、SNS利用状況や依存傾向を把握しているのか。

答 教育長 R7年度アンケート調査の結果、インターネットに接続できる機器の利用時間が「3時間以上」と回答した生徒の割合が昨年の結果より10%増え30・7%とスマートフォン等の利用時間が長くなっている。



問 家庭・学校・地域が連携した依存防止策は。

答 教育長 フィルタリング設定やルールを守った利用をしていると多くの家庭で回答があり、意識啓発が進められている。

また、社会教育委員・青少年育成推進委員合同研修会でもSNSに関するワークショップを実施し、家族、地域全体でフォローアップ体制の充実に努め、継続して適切な啓発に努める。

問 専門的な相談体制の整備は。

答 教育長 群馬県や県教育委員会で設置しているトラブル窓口等の活用の周知を図る。

一般質問

村の姿勢



林 栄一 議員

昭和中学校周辺の片品川両岸堤防の嵩上げ計画の早期構築を

村長　防災意識の向上と安心・安全な河川環境の整備に努めたい

問　昭和中学校周辺は、糸井三ツ谷地区農業集落排水処理施設をはじめ事業所や住宅地があり、重要な地域です。

ハザードマップでは、当該地域は土砂災害と浸水想定区域に示され、住民から「水害のリスクがある状態で、放置して良いのか」との声もあります。行政として、早期にこの不安を解消する施策が必要と考えます。

答　村長

水害に対する不安は、十分理解をしています。想定される浸水リスクを全て施設整備で解消するには、多額の費用と長い年月を要します。

洪水や土砂災害による被害が想定される地域であることを認識していただき、災害時は適切な行動がとれるよう、防災意識の向上や避難体制を整えることが重要と考えています。

問　片品川は利根川水系の急流河川で、豪雨時には短時間で水位が急上昇する特性があります。

過去の事例から学び、片品川における河川整備の状況と、今できる対応策をどのように考えるのか伺います。

答　村長

河川管理者である県に確認したところ、片品川については、洪水時に安全に流すことができる最大の流量、いわゆる流下能力が保たれているとのことです。

今できる対応は、越水リスクの低減につながる樹木伐採等の環境整備を継続要望し、安全・安心な河川環境の確保に努めて参ります。また、現在の園原ダムの前方に新たなダムを造る計画を立てていただいております。



二恵橋（役場付近）から望む片品川

村長　沼田市とも連携し両岸を含めた河川整備要望は可能と考える

問　昭和中学校の安全確保、農集排処理施設の機能維持、三ツ谷地域を守るためにも片品川両岸の堤防嵩上げ・強化を早期に構築するよう沼田市と連携をし、国・県へ要望しては如何でしょうか。治水対策でも戸倉ダム建設計画の再検討・復活を、どう捉えていますか。

答　村長

片品川の治水安全度の向上や両岸を含めた河川整備は、沼田市とも連携し、県に対して要望することは可能と考えます。

戸倉ダム建設は、利根沼田市町村で組織する期成同盟会で、国土交通省関東地方整備局へ要望活動を行っています。

今後も国や県等の動向を注視し、利根川水系全体の治水対策として、必要な情報収集と要望活動に努めて参ります。

最後に一言

豪雨を止めることは出来ないが、対策次第で被害は減らせます。不安が解消される方針を示し、取り組んで頂きたい。

問う 一般質問



加藤 生 議員

目指すべき村の将来像はいかに

村長 徹底した行財政改革が不可欠。殖産産業を核とし、次世代へ引き継げる活力ある村を目指す

インフラ整備について

問 人口減少下における上下水道施設の改修計画と、道路の維持補修への対応方針は。

答 建設課長

水道は東部浄水場の方式変更（事業費約5億円）、下水道は処理場の統合（事業費約4億円）を計画している。道路は緊急性等を勘案し、補助事業や地方債を活用して計画的に補修を進める。コスト増には、事業の効率化に加え、料金体系の見直しを含め検討する。

税収の見通しについて

問 過去3年間と今後3年間の税収想定、および中長期的な対策は。

答 税務会計課長

過去3年間の税収は12億円台から13億円台で推移しており、今後3年間も現状並みを確保できる見込みである。しかし、中長期的には生産年齢人口の減少に伴い、税収は落ち込むと想定される。

国民健康保険について

問 県内で上位にある国保の納付金（負担金）の今後の見通しは。

答 住民課長

県は令和15年度を目標に県内の保険税水準の完全統一を目指しており、令和9年度からは移行期間として算定方式が統一される。最終的に県内のどの市町村に住んでいても、同じ所得水準や世帯構成であれば同じ保険税となる見通し。村としては、県の会議等で小規模自治体の実情に即した支援を要望していく。

財政について

問 大規模事業が続く中での財政見通しは。

答 総務課長

義務教育学校、利根沼田新ごみ処理施設やインフラ更新等により、財政は非常に厳しい局面にある。「行財政改革推進委員会」を設置し、事業規模や実施時期、既存事業の縮小・廃止を含む見直しを進めている。

企業誘致について

問 今後の見通しは。

答 企画課長

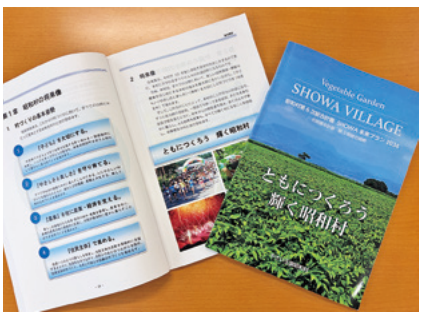
東京ガスエンジニアリングソリューションズ㈱が進出し、令和11年度中に施設が運用開始予定である。今後は優良農地の保全を最優先とし、農地以外の適地で誘致を進める。

村の将来像について

問 これまでの質疑を総合し、村としてどうあるべきか。

答 村長

「殖産興業」が村政運営の根幹をなすものと認識している。人口減少に伴う税収減や医療費負担増に加え、大規模事業が控えていることから行財政運営において厳しい局面を迎えている。施設の長寿命化や統廃合、広域連携など、徹底した行財政改革で将来世代の負担軽減をし、基幹産業である農業の振興と、優良企業の戦略的誘致により「稼ぐ力」を高める。雇用創出が移住・定住を促し、税収安定につながる「成長の好循環」を生み出し、次の世代へ引き継げる活力ある村を実現する。



一般質問

村の姿勢



佐藤　好美　議員

昭和村総合福祉センター「昭和の湯」の老朽化対策と今後は

村長　今後の施設の在り方は利用率・財政状況による

問　平成8年から、親しまれてきた、昭和村総合福祉センター「昭和の湯」。「日本で最も美しい村で、自然に囲まれた温泉につかろう」を目的に多くの方々の交流、癒し、健康増進の憩いの場ですが、対策が迫られています。

①老朽化対策は

②村民福祉の向上の役割の継続を望む声

③村内唯一の公的温泉の今後の考えは

昭和の湯が公の施設として存続し続ける**メリットは大きく3点**。1点目は災害時の備えの場所、2点目は、安価で福祉を目的にした、地域住民の繋がりや見守りの場、3点目として観光誘致資源でもあります。

その「昭和の湯」の老朽化は否めません。現在シャワーが故障し、設備的にも大改修が必要です。一刻も早く応急手当をして、さらに親しまれる「昭和の湯」に期待します。

答　**村　長**

①の対策としては、緊急的な修繕は補正予算で対応します。②の存続を望む声は十分承知、真摯に受け止めている。③の今後については、施設の在り方について、村民の方の利用率や財政状況を総合的に勘案し、あらゆる選択肢を排除せず慎重に検討していきます。





利根沼田ごみ処理広域化基本構想実現のための具体策は

村長　ゴミ袋・分け方・出し方・収集頻度・排出形態を統一化

体策の検討を求めます。

問　利根沼田地域の構成5市町村では、現状のごみ処理方法を把握し、広域化の基本的な方針や内容が具体化されつつあり、ゴミ処理施設の更新が急務を踏まえ、

①広域ごみ処理施設に係る本村の費用負担は

②ごみ袋の安価対策、ごみの出し方等は

村民の暮らしに直結したごみ処理問題の具体策はどのように考えていますか。新施設建設と併せて、広域的にごみ袋の値段、粗大ゴミの収集の仕方等も一緒に検討してください。本村では、粗大ごみや硬質プラスチックを出すのに、収集場所に持参、細分化と手間がかかります。

県都前橋のゴミ収集例は参考になります。各家庭のごみが出しやすくなりますよう、広域的に具

答　**村　長**

①について、利根沼田ごみ処理広域化基本計画では、可燃ゴミ処理施設工事は3カ年かけて行う予定。新施設工事費は、昭和村の負担割合は、11・34％。今年度は、建設費負担金分で493万1千円を負担予定で、9月補正に計上。

協議会の負担金試算では、建設工事費130億。本村では令和9年度から14年度には、計11億円前後の予算確保が必要。財源の約8割は借り入れ元利償還金を30年かけて償還予定。その他の費用負担は未定。

②について、新施設に合わせて統一すると言うことを調整方針として協議を進めている。

問う　一般質問



堤　宏康　議員

鎌沢案の次善案として昭和中学校の活用は

教育長　お答えできないのが筋、承認を願っている

問　「候補地としての昭和中学校」について、評価は別とし、関係法令等に照らし合わせて建設は可能か。

答　教育局長

県の関係部署とも協議した。そこに代わる場所がなければ、防災の処置を講じてできると話は頂いている。

問　昭和中学校について8点検証してみたい。まず、広報しょうわ7月号に関連して①公平性…中学校活用なら児童の公平性は担保される。②児童への負担軽減…小学校校舎完成後、一時的に中学生が使用しその間、中学校校舎の改修。完成後に、小学生を迎えて義務教育学校の開校をする。（議会だよりNo.123参照）③事業推進の確実性…現に校舎が建っている。

次に、これまでに問題となった点を整理した。④地盤…「昭和中地盤は比較的良好であった。」と第14回協議会資料にある。⑤建設費…当初見込みの60億円と第12回協議会資料中の昭和中候補地がほぼ一致⑥既存校舎の解体費…鎌沢案では解体費は含まず。廃校舎が4校と3校では今後の負担も変わってくる。⑦浸水洪水想定…「片品川について、洪水時の流下能力が確保されている」と県に確認しているとの村長答弁あり。「校舎建築において、洪水対策、浸水対策をして地域の人に理解頂けるような状況で建てていかなければならない」との教育長答弁あり。⑧真に一つの村・母校といった視点…消防のポンプ操法競技大会では、中里団長のお人柄と相まって、昭和中学校卒業世代の村消防団としての一体感を強く感じた。特色ある校舎が、親、子、孫へと紡がれていく母校はかけがえのない村の財産と思う。

そこで、教育長にご意見を伺いたい。鎌沢案の次善案として昭和中学校の活用は。

答　教育長

正直申し上げて、お答えできないのが筋。根幹に至る部分は承認を願っている。

大規模事業の総額は

村長　合計は約120億円

問　「昭和村財政推計」で、大規模事業の概算支出の見込みは。

答　村　長

現在進捗中の事業（億円）「旬菜館新築4、赤城西麓2、北麓管路整備2」。今後予定事業「義務教育学校79、新ごみ処理施設14、コミュニティーセンター改修7、福祉センター配管改修3、東部浄水場更新5、下水道施設南地区統合4」。合計は約120億円（村一般会計約2年分）。物価高騰の影響を受け上昇していく。今後、取崩しを進め、財政調整基金は令和13年度で枯渇。特定目的基金も一般会計の残高は約4億円と見込んでいる。

※後日の議会全員協議会にて詳細な説明があった。（8ページ参照）



昭和中学校

村の姿勢



林 幸司 議員

福祉拠点「昭和の湯」存続へ大規模改修を

村長　日帰り温泉に滞在型の機能も付け加えていきたい

問　①福祉の拠点施設として存続を求めます。
②緊急修繕を早急に実施し、大規模改修については早急に調査設計にとりくむよう求めます。
③営業を継続しながらの大規模改修へ、入浴関連施設のみを隣接地に新設する方法が望ましい。

答　村長
①今後の修繕費用や、年間3千万円超の赤字補填を継続することは厳しい現状であり、福祉という形から考え方を変えて、日帰り温泉としての機能を残しつつ、できれば滞在型の機能も付け加えていきたい。
②補正予算800万円で緊急に修繕を行います。
③大規模改修には3億円かかる。隣接地への新設は、今後のあり方を含め検討していきたい。

社会体育館など避難所へエアコン設置を

村長　よく協議した上で、早めに方向性を出したい

問　①社会体育館へのエアコン設置、地域活性化センターは早急に更新を行うよう求めます。
②コミュニティーセンターを大規模改修するよう求めます。
③小中学校については、今後も有効活用していく体育館にはエアコン設置を求めます。

答　村長
①避難所の環境整備は、極めて重要であり、よく協議した上で、方向性をなるべく早めに出していきたいと考えています。

答　教育長
②築40年が経過し、令和9年度に改修予定でしたが、財政状況やコストを抑え、適切な時期に進めてまいります。
③統合後の学校利活用については、地域のご意見を伺い検討します。



社会体育館

養蚕古民家群の「ぐんま絹遺産」登録を

村長　文化財保護委員会で話し合っていきます

問　①重伝建指定の準備として必要な「条例の制定」を求めます。
②利根沼田で「ぐんま絹遺産」への登録なしは昭和だけです。登録を推進するよう求めます。

答　村長
①専門家による分析調査を行い、価値を把握するなど多くのハードルがあり、しっかりと準備を行う必要があります。
②所有者の同意が得られれば、登録は可能です。文化財保護委員会で話し合っていきます。

シリーズ72

地域でがんばる人

村民の温かさに癒やされ ご厚情に絵画や歌で恩返しを

私がサルコイドーシスという難病になったことがきっかけで、17年前に東京から緑豊かな昭和村久呂保高原にアトリエを移しました。村民の皆様の温かさに触れ、癒やされ、きれいな空気と美味しい野菜のおかげで、今ではすっかり病気は完治しました。その後スペイン（在西日本大使館後援）、パリでの個展を開催することができました。

「日本で最も美しい村連合」加盟記念として開催された、昭和村のフォトコンテストでは、当時の加藤村長様より特別審査員として推挙され、四季折々の自然豊かな四季を撮影した写真審査をさせていただきました。さらに第80回記念太平洋展内閣総理大臣賞受賞作品「朝な朝」（昭和村コミュニティーセンター展示）等を昭和村に寄贈し、現在も展示しています。来年10月には、名古屋松坂屋本店にて大規模な個展を開催する予定です。自然豊かな昭和村で暮らしているからこそ元気で、頑張って制作し続けていられるのだと感謝しています。

洋子はマーサ三宅氏に師事し、ジャズ歌手「塚越三代」として、現在も東京での活動を続けています。過去にはペギー葉山さん、菅原洋一さん、雪村いづみさんとも共演させていただきました。

昭和村では、平成23年の東日本大震災被災者支援、平成28年の熊本震災チャリティー、昭和村施行60周年記念式典や昭和の秋まつり等でジャズコンサートをさせていただきました。また、昭和の森山荘や自宅でも弾き語りライブを開催し、村民の方々との親交を深めて参りました。12月にはクリスマスディナーショーの開催も予定しています。

最近では、健康麻雀の指導を依頼され、皆さんと楽しい時間を過ごすとともに、自宅でも村の方々と一緒に楽しんでいます。

最後に、私達夫婦は、村民の皆様から受けたご厚情に少しでも恩返しができるように心から願っています。



塚越仁慈（洋画家）
洋子（ジャズ歌手）さん（永井上組）

村議会議員に立候補しませんか



本定例会で議員定数が見直しされ、次々回の選挙からは10名となりますが、今回の選挙は定数12名のままです。現在の議員任期が令和８年12月10日までとなっていますので、定数を上回る立候補をお待ちしています。

村の未来を創造し、地域を活性化する意欲ある皆様の積極的な村政への参加をお願いします。

立候補者説明会：11月10日（火）　午後１時30分
告　　示：11月24日（火）　午前８時30分～午後５時
投 開 票 日：11月29日（日）　午前７時～午後６時（一部午後５時）　※開票　午後７時

編集室から

全国各地で豪雨災害が多発。水害リスクの備えは必須です。

９月定例会は、決算審査に加え、今後計画される多くの公共事業も議論されました。「入りを量り出ずるを制す」つまり財政・家計の基本原則を基に、確かな決断が必要な時です。

各自治体の動向や人口減少などで、議員定数の削減が最終日に可決をされ、議員の効率的な活動が求められます。

十七期の議会広報編集特別委員会として、最後の編集です。目指すは「議会の見える化」と「手に取って読まれる」議会だよりです。これからも活力ある村に繋がるよう、次の編集委員会へバトンを渡します。

林　栄一　記

議会広報編集特別委員会
委員長　林　栄一
副委員長　藤井　貞充
委員　阿部　孝司　佐藤　好美　堤　宏康　沢浦　典子　永井　一行

議会だより既刊号

令和8年10月15日　発行／群馬県昭和村議会
〒379-1298 群馬県利根郡昭和村大字糸井388
編集／昭和村議会広報編集特別委員会　印刷／朝日印刷工業㈱
☎0278-25-3546　FAX0278-24-5254